

公益財団法人いたみ文化・スポーツ財団

第3次経営計画

平成31(2019)年度～2023(平成35)年度

～「心豊かで笑顔あふれる元気なまち いたみ」の実現に向けて～

公益財団法人いたみ文化・スポーツ財団

平成31(2019)年4月

目次

1. 経営計画策定にあたって.....	1
2. 経営理念	2
(1) 財団の使命	2
(2) 経営信条.....	3
(3) 職員行動指針.....	4
3. 財団を取り巻く現状と課題	5
(1) 事業推進.....	5
(2) 財務運営状況.....	7
(3) 組織体制.....	8
(4) 財団における「強み」「弱み」「機会」「脅威」.....	10
4. 前経営計画の取組状況	13
5. 経営戦略	20
(1) 基本方針.....	20
(2) 基本計画.....	21
(3) 計画目標.....	32
6. 今後の収支見通し	33
7. むすび（計画推進に向けて）	34

1. 経営計画策定にあたって

平成4年2月12日に財団法人として設立した伊丹市文化振興財団は、「市民に質の高い文化と学習の機会を提供することにより、地域の文化及び生涯学習の振興に寄与すること」を目的として事業を行ってきました。

財団設立以来、伊丹市立文化学習施設の管理運営を受託し、平成18年度からは伊丹市内の市立文化会館をはじめ8つの文化・生涯学習施設の指定管理者として、平成25年度からは伊丹市昆虫館を加え9施設の管理運営を受託するなど、地域の文化・芸術及び生涯学習の振興に向け、業務の拡大と充実に努めてまいりました。

平成22年7月に「財団法人」から「公益財団法人」へ、平成29年4月には、公益財団法人伊丹スポーツセンターとの実体的統合を果たし、「公益財団法人いたみ文化・スポーツ財団」として新たなスタートを切りました。定款に定める法人の目的を『伊丹市における芸術・文化、生涯学習及びスポーツの振興に関する事業を行うことにより、市民の文化意識の向上及び健康の増進を図るとともに、地域社会の発展と豊かな市民生活の形成に寄与すること』に改め、文化・芸術、生涯学習、スポーツ振興の各分野の主たる担い手として積極的な事業展開を推進しています。

人々のライフスタイル・価値観が個性化・多様化し、日々の暮らしの豊かさやゆとりへの意識の高まりなどが大きく変化している中、様々なニーズに機敏かつ的確に対応を図っていく必要があると考えています。この度、幅広く文化、スポーツ等に接することができる機会と場を提供するとともに、地域との連携、市民との協働事業の推進、教育現場等へのアプローチ、施設の有効活用といった各施策を展開していくため、平成31（2019）年度から2023（平成35）年度を計画期間とする新たな経営計画、「公益財団法人いたみ文化・スポーツ財団第3次経営計画」を策定しました。

本計画は平成29年度及び平成30年度を計画期間として策定した「公益財団法人いたみ文化・スポーツ財団経営計画」をベースに、平成29年に改正された「文化芸術基本法」、同法に基づき策定された「文化芸術推進基本計画」、さらに伊丹市において平成29年度に示された「伊丹市の文化振興施策にかかる指針」、「伊丹市スポーツ推進計画」にも留意し、策定しています。

本計画に掲げた目標の実現を目指し、職員の総力を結集して、着実かつ効率的・効果的な施設運営及び事業実施に取り組めます。

2. 経営理念

(1) 財団の使命

平成29年4月に新たに「公益財団法人いたみ文化・スポーツ財団」としてスタートを切った当財団は定款第3条において、その目的を次のとおり定めています。

この法人は、伊丹市における芸術・文化、生涯学習及びスポーツの振興に関する事業を行うことにより、市民の文化意識の向上及び健康の増進を図るとともに、地域社会の発展と豊かな市民生活の形成に寄与することを目的とする。

この定款に定める目的を達成するために、「財団の使命」を次のとおり定めることとします。



公益財団法人いたみ文化・スポーツ財団の使命は、広く芸術・文化、生涯学習やスポーツの場を提供するとともに、その振興に努め、市民が健康で笑顔あふれる生活をこのまちで実現できるよう貢献することです。

**私たちは、文化・スポーツを通じて
「心豊かで笑顔あふれる元気なまち いたみ」
の実現に力を注ぎます**

伊丹市総合計画（第5次）では「市民が主体となったまちづくりの実現」を基本目標として、「みんなの夢 まちの魅力 ともにつくる伊丹」をまちの将来像に掲げています。夢と魅力をともに創りだし、歴史と文化、自然などの地域資源と豊かな市民力によって活力あるまちをつくりあげることを目指しています。

文化芸術を享受し文化的な環境の中で生きる喜びを見出すことは、人々の変わらぬ願いであり、心豊かな活力ある社会の形成に重要な意義があります。

私たちは、舞台を見、音楽を聴き、芸術作品に触れられること、生涯にわたる学びにより自己実現を図るとともに、スポーツ活動に取り組み、健康の保持・増

進や体力の向上を図り、日常的に心を豊かに、健康で、笑顔が増える暮らしをこのまちで送っていただくために「心豊かで笑顔あふれる元気なまち いたみ」の実現に向け力を注いでいきます。

(2) 経営信条

財団の使命、それを果たしていくための根本となる次の経営信条をもって、財団運営を行っていきます。

- ①「心豊かで笑顔あふれる元気なまち いたみ」の実現に向け事業を展開します
- ②市民にとって利用しやすい施設運営を行います
- ③自身の才能を育み伸ばし、健康に留意し、安心して働ける職場環境をつくりあげます



市民企画公募事業「DOING! DOING!」(文化会館)



伊丹オトラク (三軒寺前広場)



中高生演劇フェスティバル (演劇ホール)

(3) 職員行動指針

財団の使命を果たしていくには、職員が共通の方向に向かっていくための行動指針が必要です。この指針は職員一人一人が「公益財団法人いたみ文化・スポーツ財団」の代表であることを自覚し、職務に取り組む姿勢を表しています。職員全員が意識して業務にあたり、市民に信頼されることを目指すとともに、これらを実践することで財団の使命を果たしていきます。



オトラクピクニック（荒牧バラ公園）



私たちは、笑顔と丁寧な応対を心がけ、市民に信頼される職員を目指します



私たちは、職務に責任を持ち、たえず学び、新たに挑戦します



私たちは、快適に利用いただける施設運営に取り組みます



私たちは、職員同士の連帯感を大切にします

3. 財団を取り巻く現状と課題

財団の運営において、社会経済情勢の推移、伊丹市の各種行政計画や財政状況により、一定の影響を受けることは避けられません。今後の経営及び事業運営を考えた場合、現状の組織・職員体制、人材育成には改善すべき点もあり、その自立と充実が大きな課題となっています。

特に近い将来、伊丹市からの職員の派遣が難しくなることが予想されるとともに、平成29年の公益財団法人伊丹スポーツセンター解散に伴う実体的な統合による財団の事業規模の拡大、人員の再配置など組織及び職員体制の見直しが急務となっています。

また平成18年4月より伊丹市の文化芸術や生涯学習等を担う施設の指定管理者として、また平成22年7月からは「公益財団法人」に移行し事業運営を行ってきましたが、これまで財団として取り組んできた事業展開や運営上の反省点、利用料金制のもつ特性などについても十分に検証を行い、今後の運営の改善に反映させていくことが重要です。

平成30年度は、平成31(2019)年度からの指定管理者の選定期間でもあり、この指定を受けることが最重要課題となっていました。平成30年12月に、現在指定管理を受託している全ての施設について31年度からも引き続き指定管理者として指定されることが決定されました。しかしながら指定を受ける複数の施設において、大規模改修工事が予定されており、これらへの対応も課題となっています。

財団を取り巻く現状や課題の概要は以上のとおりですが、事業推進、財務運営状況、組織体制の3つについて、以下に詳細を記し、さらにこれらを踏まえ、「強み」「弱み」「機会」「脅威」の4つの視点から、内部環境や外部環境について分析(SWOT分析)も行い、経営戦略へ反映させていきます。

(1) 事業推進

文化芸術、生涯学習、スポーツの事業実施に係る事業費(平成29年度決算額)として年間約4億円を支出し、約144万人(平成29年度実績)の方々にご利用いただいています。

平成29年度からは、新たに伊丹市立伊丹スポーツセンターの指定管理者としてスポーツ振興を目的とした施設貸与事業と教室事業を通して、競技力の向上と健康の保持・増進に努めており、事業の範囲が大きく拡大しました。

特に多くの施設を運営する財団ならではの事業として、いまや伊丹の秋の風物詩として認知されている「鳴く虫と郷町」は、伊丹郷町館をメイン会場に、市民や商業者、財団の運営する各施設が連携し、鳴く虫を通して人・地域を結ぶイベントとして市内外から多くの集客があります。街角で気軽に音楽が楽しめる「伊丹オトラク」は食べ歩き、飲み歩きイベント「伊丹まちなかバル」に合わせて開催するなど、中心市街地の賑わいに大きく寄与しています。



また、平成29年度、国内の博物館と連携し、旧岡田家住宅・酒蔵で実施した、日本酒づくりと自然との結びつきを紹介する企画展「日本酒の自然誌～日本文化を育んだ自然」(写真左)は文化財活用の一つの方向性を示すものとして大いに注目を集めました。他にも演劇の手法を使ったコミュニケーション教育の一環として、主に、中学1年生を対象に行ってきたワークショップを平成29年

度初めて小学4年生を対象に実施するなど、施設間の連携による事業、また施設に留まらない事業も展開しています。

このように、新たな事業を行っていく一方、限られた予算での事業運営となるため、助成金などの対象となりにくい文化会館や音楽ホールのプロモーターなどからの買い取りによる公演事業は、収支面や集客性を強く意識し、できる限りリスクを低減させた事業展開に偏りがちな傾向となっています。

また、毎年のように助成金・補助金を得ながら実施している演劇ホールの各事業や市民オペラ公演は、芸術文化振興基金や一般財団法人地域創造などからの助成金の獲得が年々厳しくなっており、極めて不安定な状況になっています。



演劇ホールによるワークショップ



第31回伊丹市民オペラ「椿姫」

(2) 財務運営状況

平成18年度の指定管理者制度の導入以降、平成24年度までの昆虫館を除く8施設の事業費と管理費を合わせた事業活動支出額は、事業費や人件費の抑制、経費の削減により、平成17年度の10億円台から、平成18年度以降は9億円から8億円規模へと、年々減少していきました。

昆虫館を加えた平成25年度以降は、事業活動支出額が再び9億円台から10億円台へと拡大し、伊丹市からの補助金・受託事業収入額も7～8億円台になってきています。さらに、伊丹スポーツセンターを加えた平成29年度は13億円と拡大しています。

しかしながら公益事業を適切かつ継続的に行うためには、ある程度のいわゆる「内部留保」は必要であるとされています(*)が、平成29年度決算での内部留保の状況は、事業規模からみてもその割合は7%と低く、弾力性や余裕のない財務状況が続いています。国の指標である30%以下という基準を大きく下回っていることから何ら問題はないともいえますが、反面、緊急時や不測の事態が発生した場合には、たちどころに財団運営に大きな支障をきたすことが想定され、財務基盤の強化・拡充が急務となっています。

施設の管理においては、設備、警備、清掃などへの委託業務が人件費の上昇などにより指定管理料で措置されている以上の経費が掛かっている部分もできています。30年度予算では、文化会館、演劇ホール周年事業を開催することもあり、内部留保金(利益剰余金)からの繰り入れでの予算編成となっており、財務面では厳しい状況となっています。

(*)平成8年9月20日の閣議決定及び平成8年12月19日付の「公益法人等の指導監督等に関する関係閣僚会議幹事会申合せ(平成18年8月15日一部改正)」による「公益法人の設立許可及び指導監督基準の運用指針」においては、『物価水準や金利等の社会経済情勢の変化等を考慮すると、公益事業を適切かつ継続的に行うためには、ある程度のいわゆる「内部留保」(総資産額から基本財産等を控除したもの)は必要である』とされています。そして、『その水準は当該法人の一事業年度における事業費・管理費等の30%程度以下であることが望ましい』とされています。

(3) 組織体制

平成4年の伊丹市文化振興財団設立当時は、生涯学習センター・演劇ホール・音楽ホールの3館の管理運営を伊丹市から受託し、その運営にあたっては、伊丹市からの派遣職員のほか、新たに採用した財団職員を合わせた24名（別途、財団採用臨時職員あり）による人員体制によりスタートさせました。

平成10年11月には文化会館、平成13年4月からは美術館・工芸センター、同年7月には伊丹郷町館を含めた7つの文化学習施設に加え、平成18年4月に図書館南分館を、平成25年4月には昆虫館、さらに、平成29年4月に実体的に統合した公益財団法人伊丹スポーツセンターが保有していた伊丹スポーツセンターを合わせ、現在10施設の文化芸術、生涯学習、スポーツ事業の展開と



財団設立と同じ平成4年に開館した生涯学習センター

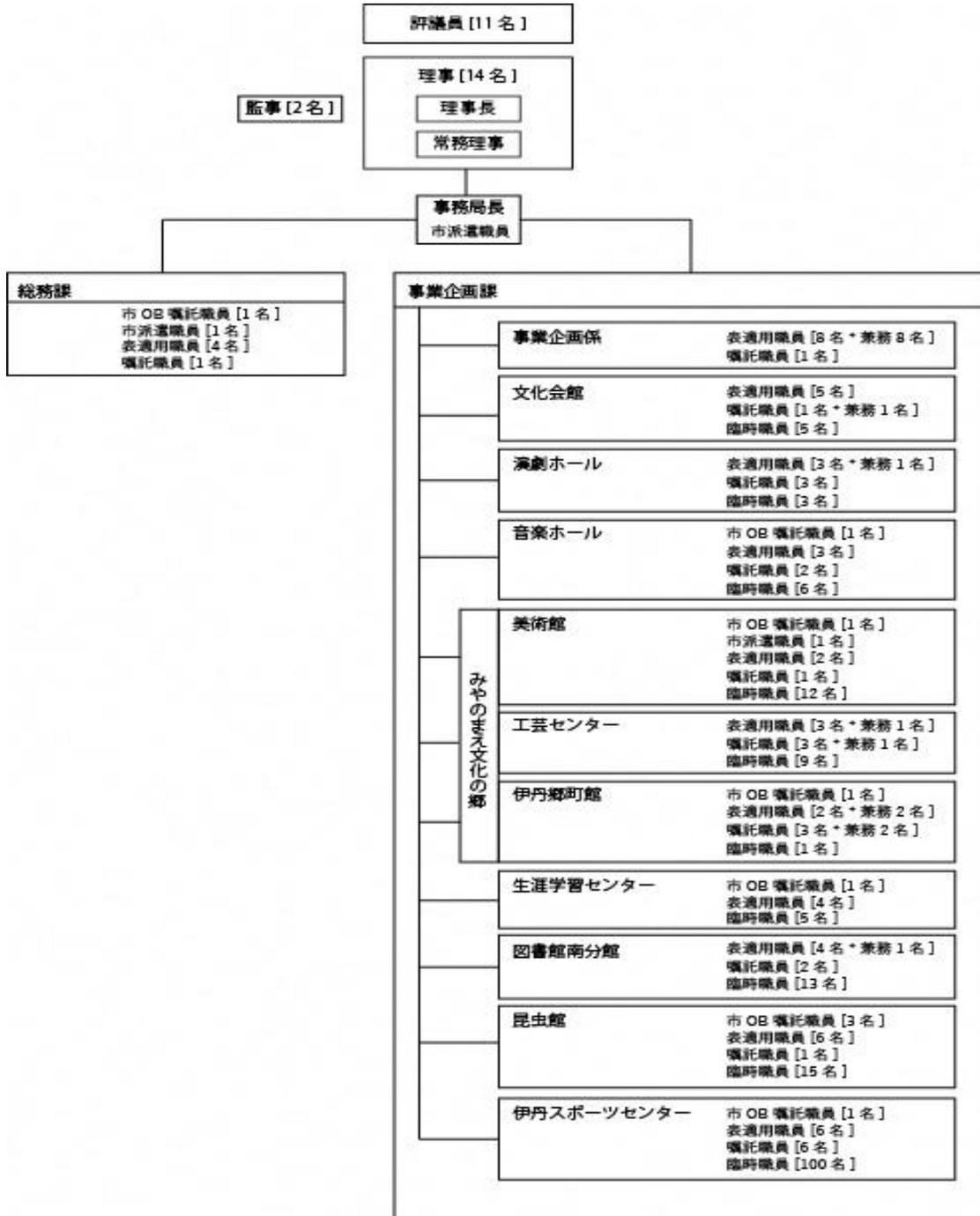
施設の管理を市派遣職員、市OB嘱託職員、正規職員、嘱託職員の72名（平成30年4月1日現在）とキャリアスタッフ職員（一定の経験を積み、登用されたスタッフ職員）及びスタッフ職員により担っています。

財団設立以降、順次、管理施設が増加したことにより、都度、職員数は増加していきませんが、設立から四半世紀が経過する中で職員の加齢が進む一方、職員定数や人件費の問題から計画的な新規職員採用が進まず年齢構成のバランスを欠くこととなり、各施設の管理運営も必要最小限の職員体制で行っている状況にあります。

また、一つの公益財団法人が①文化②芸術③生涯学習④文化財⑤スポーツ⑥昆虫をはじめとする自然環境学習など、様々な分野での事業運営を行うという特異な側面があり、人事配置もそれぞれの施設業務に特化した専門的な職員を配置せざるを得ない状況や、職員自身の専門指向とも相まって、総合職としての育成が進みにくいなど人事異動が難しい現状にあります。このため、組織の柔軟性や活性化を欠くといった弊害など、多くの課題を抱えております。さらに将来を見据え、自律的な運営を考えた場合、適正な定数管理をはじめ、人材の確保・育成と組織体制の充実・強化、意識改革が強く求められます。

組織図

平成30年12月1日現在



*臨時職員はキャリアスタッフ・スタッフ職員を指す

(4) 財団における「強み」「弱み」「機会」「脅威」

財団の現状や外部環境を「強み」「弱み」「機会」「脅威」という視点から整理しました。SWOT（*）分析と呼ばれる現状分析の手法で、経営戦略の方向性を導くためのひとつとして、以下のとおり分析を試みました。

強み (Strength)

- 伊丹市からの全額出資によって設立された公益財団法人として社会的信用がある
- 伊丹市との密接な連携と人事交流が可能
- 文化、生涯学習、スポーツ施設を管理運営できる高い専門性があり、施設の指定管理者としても豊富な実績とノウハウがある
- 近年、マンション建設が相次ぎ人口が増加している中心市街地にあつて徒歩圏内に文化施設が集まっており、施設毎の事業展開だけでなく、面で事業展開が可能
- 地域活動団体、市民組織、行政機関などとの幅広いネットワークを活かし、活発な市民活動との連携・協働の実績がある
- それぞれの施設が持つ特色を活かした情報を広く発信している

弱み (Weakness)

- 伊丹市からの事務局補助金があるものの、指定管理委託料に財団本部経費が含まれていないことから、法人として財務基盤の脆弱さがある
- 施設の指定管理業務により財団が成り立っており、指定管理者選定方法に変更があった場合、現在の状態を維持できなくなる可能性がある
- 個々の施設の業務に高い専門性が求められることから、人事異動による新陳代謝が図りにくい
- 職員の年齢構成に歪みがあり、組織体制、人材育成の強化が必要となっている。今後予定されている大規模改修など施設が休館した際の人事配置に対する不安がある
- 訪日外国人の増加が見込まれるなか、トイレや外国語表記などハード面での対応が遅れている

機会 (Opportunity)

- 「伊丹市の文化振興施策にかかる指針」（平成30年3月）、「社会教育ビジョン」（平成29年11月）の提言、「伊丹市スポーツ推進計画」（平成30年3

- 月) などの各計画に沿った事業展開ができる
- 指定管理施設間の連携実績はあるものの、まだ連携事業が多くない状況であり、更なる展開が可能である
- 伊丹市と連携し、外国人観光客を対象とした施設案内板の多言語表示を行うなどインバウンドへの取り組みが進んできている
- 高齢者人口の増加により、健康維持・増進志向の機運は継続的に向上が見込まれる
- 2020年のオリンピック・パラリンピック競技大会に向け、スポーツへの関心の高まり、障がい者スポーツの認知度の向上が見込まれ、伊丹スポーツセンターでの事業にも期待が高まっている

脅威 (Threat)

- 人口減少により、利用者の減少が見込まれる
- 震度5以上の地震や台風、長雨など自然災害により、施設貸与、事業実施のリスクが高まっている
- 職員の少ない時間帯に発生する犯罪・災害へのリスク管理が十分でない



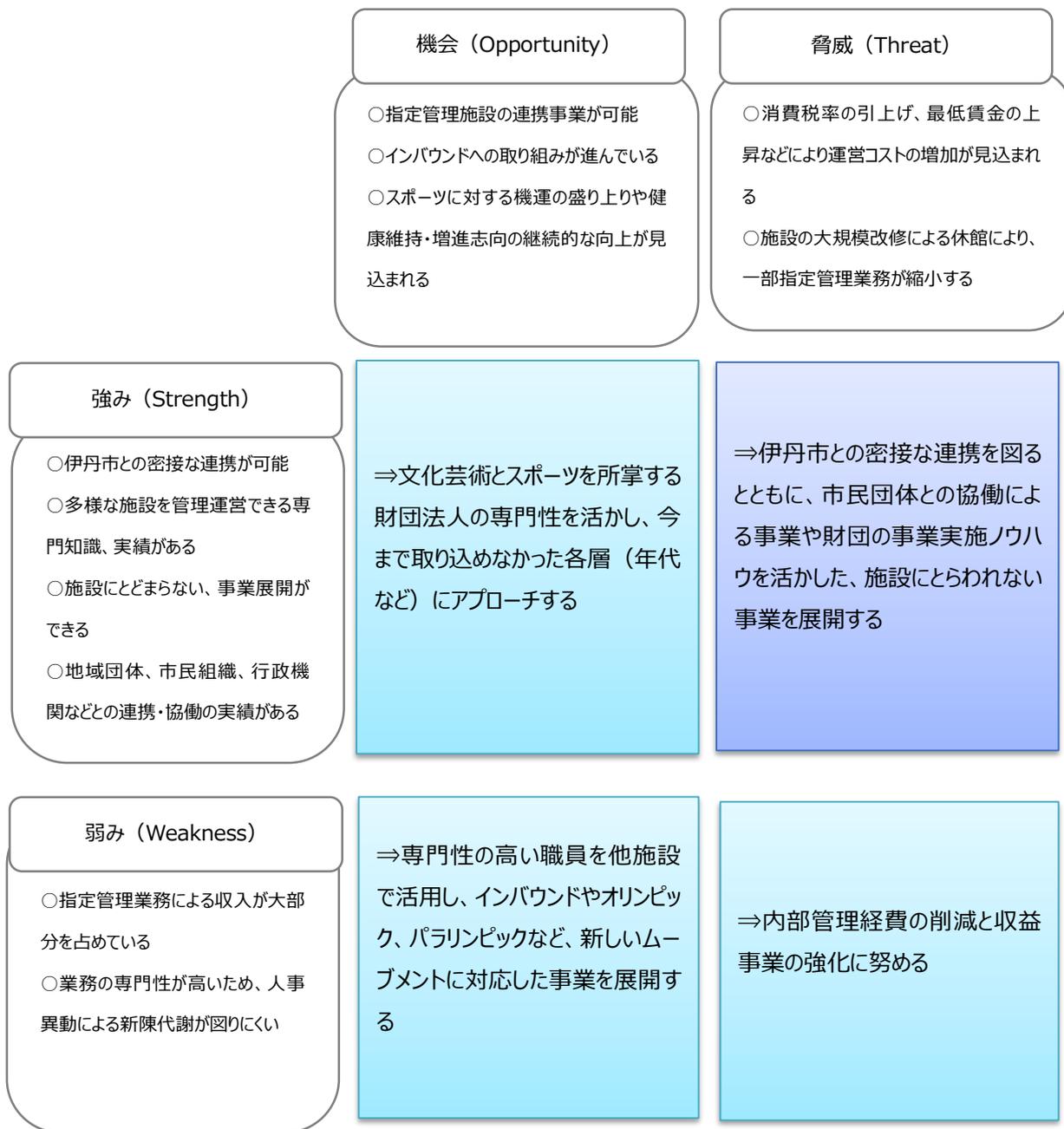
伊丹スポーツセンターで行われた伊丹市総合防災訓練

- 消費税率の引上げ（平成31年10月予定）、最低賃金の上昇などにより運営コストの増が見込まれる
- 指定管理業務において、伊丹市公共施設再配置基本計画の進捗による施設の統廃合や施設の大規模改修による影響を受ける可能性がある
- 周辺市において公共施設の建設や建替えにより、新しい施設へ利用者が離散する可能性がある
- フィットネス分野の競合業者が増えてきている

(*) SWOT

〔Strengths (強み)、Weaknesses (弱み)、Opportunities (機会)、Threats (脅威) の頭文字語〕 事業分析法のひとつ。ある事業について、その強み・弱み・機会・脅威を判定し、経営課題を導き出す。SWOT分析。(出典：大辞林)

SWOT分析により洗い出した4つの項目を掛け合わせることによって得られた結果は以下のとおりです。



4. 前経営計画の取組状況

「公益財団法人いたみ文化・スポーツ財団経営計画～新たな^{たびだち}出発と飛躍をめざして～（平成29年度～30年度）」では、伊丹市総合計画（第5次）との整合性や指定管理者としての期間に符合した平成29年度から30年度の2ヵ年の計画として、財団の定款に掲げる目的である「伊丹市における芸術・文化、生涯学習及びスポーツの振興に関する事業を行うことにより、市民の文化意識の向上及び健康の増進を図るとともに、地域社会の発展と豊かな市民生活の形成に寄与すること」を達成するため、現在、その遂行に努めています。

特に現経営計画において掲げた次の4つの基本項目については、事業数や入館者数の増加など成果をあげており、引き続き精力的に取り組んでいきます。

① 次世代を担う子どもたちの
育成事業の充実

② 文化芸術によるまちづくり
への取り組み

③ 生きがいと健康づくり
事業の拡充

④ 情報発信の強化、見直し

平成30年3月末時点での事業等の達成状況については、以下のとおりです。

① 次世代を担う子どもたちの育成事業の充実

(ア) 子どもの感性を育む鑑賞事業の提供

【文化会館】人形劇やファミリー向けミュージカルやコンサートなどで一般料金より安価な子ども・学生料金を設定。また、クラシックバレエでは鑑賞だけではなく、公演前にバレエ教室生徒向けのバーレッスンを実施しました。

【美術館】子どもや親子を対象とした質の高い展覧会を実現、「絵本のひきだし林明子原画展」には子どもたちを中心に幅広い世代から多くの来館がありました。

【演劇ホール】 子どもを対象とした演目の演劇公演を自主制作し、上演。平成29年度は7月より「みんなの劇場」子どもプログラム「とおのもののけやしき」(写真)を上演し、全国6か所で巡演しました。



【音楽ホール】 市民オペラ公演事業において、小中高生を対象とした格安の「いたみっこ席」を設定しました。

(イ) 子どもの創造力・表現力・コミュニケーション力及び体力を高める講座・体験事業の提供

【演劇ホール】「こどものための夏休みワークショップ」や中高生のための演劇ワークショップなど、プロの役者やダンサーを講師とした演劇・ダンスワークショップを開催しました。

【工芸センター・伊丹郷町館】 1,000名を超える参加者でにぎわう「夏休み1日クラフト教室」や市内ボランティアサークルによる絵本づくりのワークショップなど子どもたちが主体的に創作活動に取り組める場を提供しました。

【生涯学習センター】「競技かるたに挑戦」やスポーツ苦手チャレンジの講座を新たに実施するなど、子どもたちに様々な学びの場を提供する「こども寺子屋」事業の拡充を行いました。

【昆虫館】セミの羽化観察会やミツバチ観察会など昆虫をテーマにした講座だけではなく、クモや野鳥など生物多様性をテーマにした講座を実施しました。

【伊丹スポーツセンター】子どもたちに「見て・聴いて・触れて」たくさんの刺激を与え、様々な感覚を養うとともに、リズム体操やとび箱などを取り入れたキッズ体育教室など心身の発達、成長を目的とした内容の教室を開催しました。



キッズ体育教室

(ウ) 学校(学生)との積極的な連携

【文化会館】近隣の小学2年生を対象に「舞台裏ツアー」を実施。また、大阪交響楽団の無料公開リハーサルへの招待や、演奏者のアウトリーチを実現するなど連携を深めています。

【音楽ホール】近隣の小学2年生を対象に「舞台裏ツアー」を実施。市民オペラ公演におけるボランティアスタッフの活用。また、伊丹シティフィルハーモニ

- 一管弦楽団による、市内保育所や幼稚園などへの出張演奏会を実施しました。
- 【演劇ホール】「みんなの劇場」こどもプログラム「とおのもののけやしき」の上演に際してバックステージツアーを実施。また、市内中学・高校へ演劇のアウトリーチ事業を実施しました。
- 【昆虫館】市内小学校、幼稚園、保育園への出張講座や、蝶の飼育講座など学校教員向けの研修事業を実施しました。
- 【伊丹郷町館】トライやるウィークの生徒が発案したワークショップなど子どもたちが主体的に創造活動に取り組める機会を提供しました。
- 【生涯学習センター】大学生や高校生、中学生と連携した講座や展覧会を協働で開催しました。
- 【図書館南分館】職員とともに児童・生徒が積極的に関与してイベントを企画・実施する「ほうかご図書館くらぶ」では、おはなし会やわくわく絵本広場などの事業を開催しました。
- 【伊丹スポーツセンター】市内の小学校、中学校に出向き、専門性の高い水泳の技術指導及び安全管理のための指導補助を試行的に実施しました。



スポーツセンター職員による研修風景

② 文化芸術によるまちづくりへの取り組み

(ア) まちへの集客、にぎわいづくり

- 【文化会館】「伊丹オトラク」、人気企画「仮面ライダースーパーライブ」「週末よしもと爆笑ライブ」「桂米朝一門会」や注目度の高い「キエフ・クラシック・バレエ」「劇団四季」ミュージカルなどを実施。また、市民参加型事業の「市民ピアノリレーコンサート」も継続して実施しました。
- 【生涯学習センター】ラスタ映画倶楽部「この世界の片隅に」など話題作の映画を上映しました。
- 【演劇ホール】少年王者館、MUM&GYPSY、燐光群、青年団など人気・実績のある劇団公演を実現しました。
- 【音楽ホール】「寺井尚子コンサート ～SWING JAZZ LIVE～」、「ハワイアンミュージック&フラ・コンサート」、「ウイーン＝ベルリン・ブラス・クインテット」など多数の集客を実現した公演を実施。また、市民オペラ合唱団への参加に繋げるための合唱講座を拡充しました。

【美術館・工芸センター・伊丹郷町館】美術館、工芸センターが共同して大型企画展を開催するなど市内外からの大きな集客を実現。また、伊丹郷町館でも文化財空間を活かしたイベントを実施し、「鳴く虫と郷町」の開催では、中核施設としての役割を果たしました。



期間中多くの来館者で賑わった林明子原画展

【図書館南分館】生きた昆虫の観察と昆虫の絵本の読み聞かせをあわせた事業「虫のわくわく☆相談室」を昆虫館職員とともに実施しました。

【昆虫館】「ぶんぶんミツバチ展」など身近にありながらその生態が知られていない生物を分かりやすく紹介したほか、話題性に富むものを積極的に館として取り上げていきました。

【伊丹スポーツセンター】「全国高等学校なぎなた選抜大会」をはじめ、小学生以下日本代表選手選考会に指定されている「伊丹オープン卓球大会」など人気の高い大会会場として利用されました。

(イ) 協働・連携による中心市街地の活性化

【文化会館】「伊丹オトラク」や市民の企画を支援する「伊丹タウンシアター事業」などを通じ、市民及び各種団体と協働・連携を進め、中心市街地の活性化と回遊性の向上に貢献しました。

【生涯学習センター】展示イベントや出張講座、講座グループの出張演奏を行った他、「鳴く虫と郷町」の中でも様々な事業を実施しました。

【演劇ホール】地域とつくる舞台シリーズとして「伊丹の物語」プロジェクト『さよなら家族』を上演。写真やエピソードの提供者をはじめ、多くの市民との協働により脚本などを創作するとともに、3年間のプロジェクトドキュメントブックを作成しました。

【音楽ホール】「鳴く虫と郷町」の関連企画「鈴虫音楽堂」の開催や、伊丹市民オペラ関連事業として一般人に扮したオペラ出演者が街中で歌いだす「フラッシュモブ」(写真)を実施するなど、地域と一体となってオペラ事業を盛上げました。



【美術館・工芸センター・伊丹郷町館】絵本展や国際クラフト展における市内企業及び店舗との連携、「鳴く虫と郷町」事業の中核施設としての事業展開を行うなど、中心市街地の活性化と回遊性向上の拠点施設として大きな役割を担いました。

- 【図書館南分館】「鳴く虫と郷町」にあわせた生きた鳴く虫の展示と関連図書コーナーの設置、「虫のわくわく☆鳴く虫ひろば」の開催等の事業を行いました。
- 【昆虫館】全国8館の自然史系博物館と連携し、みやのまえ文化の郷において企画展「日本酒の自然誌～日本文化を育んだ自然」を開催しました。
- 【伊丹スポーツセンター】「鳴く虫と郷町」の期間中、体育館に虫かごを設置するとともに関連グッズを販売しました。

(ウ)「住みよい魅力あふれる文化都市」伊丹のアピール

- 【文化会館】大ホールでの「千住真理子ヴァイオリンリサイタル」、大和室での「寄席」、伊丹郷町館での「テレマン サロンコンサート」など多種多様な事業を展開し、文化都市伊丹のブランドイメージに貢献しました。
- 【生涯学習センター】サイエンスカフェ伊丹企画や管楽器アンサンブル講座など他市にはあまりない独自性のある企画を実現しました。
- 【演劇ホール】地域とつくる舞台シリーズ「伊丹の物語」プロジェクト『さよなら家族』（写真）を実施し、伊丹の暮らしや歴史など隠れた魅力を掘りおこし、市内外にアピールしました。



ら家族』（写真）を実施し、伊丹の暮らしや歴史など隠れた魅力を掘りおこし、市内外にアピールしました。

【音楽ホール】ホールの特長でもある響きの良さを十分に活かした事業構成を図るとともに、市民オペラ関連事業の拡充や伊丹シティフィルハーモニー管弦楽団

など育成団体と協働し、アウトリーチ事業を実施するなど積極的に事業展開を進めました。

- 【美術館・工芸センター・伊丹郷町館】新聞各社・他施設と連携した大型展覧会の開催や特定の年齢層・分野に偏ることのないバラエティ豊かな展覧会の実施、貴重なひな飾りの展示や七夕の笹飾りで来館者にお楽しみいただくなど幅広い層の集客を実現し、都市ブランド向上に繋がっています。

- 【図書館南分館】生涯学習センターの共催事業をはじめ、市内各施設と連携し、施設事業にあわせた図書の展示・案内や他施設職員を講師に招いた行事を実施し、様々な分野に関心を深めてもらう機会の提供に努めました。



夏休みお楽しみ会の様子

【昆虫館】多くのマスコミへの露出を通じて伊丹市のイメージアップに貢献するとともに、話題性に富む新しい視点からのアピールへ挑戦しました。

【伊丹スポーツセンター】スポーツセンターピクニックイベントでは観光名所である荒牧バラ公園までのピクニックに、音楽イベント「伊丹オトラク」を加え、ピクニックと音楽を融合させた新たな事業を行いました。

TOPIX

音楽ホールが地域創造大賞を受賞

地域における創造的で文化的な表現活動のための環境づくりに特に功績のあった公立文化施設を顕彰する平成29年度「地域創造大賞（総務大臣賞）」を受賞しました。平成16年度受賞の演劇ホールに次いで市内では2施設目の受賞です。

<受賞理由>

市民のための音楽広場。伊丹シティフィルハーモニー管弦楽団、伊丹市吹奏楽団、伊丹市民混声合唱団、伊丹市少年少女合唱団、伊丹市民オペラの拠点。開館当初から音楽人類学の専門家とともに世界の民族音楽をコンサートや講座で紹介する「地球音楽プログラム」をプロデュースするなど、長年にわたり音楽による多文化理解に貢献したことが評価されました。

③ 生きがいと健康づくり事業の拡充

【生涯学習センター】シニア世代の経験や人脈を活用した市民企画をサポートし、地域住民が学習活動を通じて出会い、交流する場となる機会をコーディネートするなど、市民目線の企画を幅広く展開。フィットネスタスタにおける会員の高齢化が進む現状を踏まえ、施設の改善やプログラムサービスの見直しを実施しました。

【図書館南分館】おはなし会などのイベントを複数のボランティア団体とともに継続実施するほか、生涯学習センターで活動するグループによる大人向け図書朗読会の開催や人形劇実行委員会と連携しての共同事業を実施しました。

【伊丹スポーツセンター】中高年層を対象としたスポーツ教室を開講し、健康保持・増進はもとより、仲間づくりや生きがいをづくりにもなるよう、楽しみながら身体を動かすプログラムを提供。また、教室受講生以外でも当日参加できる「健康体操」を開催し、気軽に運動に親しんでもらう取り組みや市内の特別養護老人ホーム（写真）、幼児・小学生を対象とした児童発達支援・放課後等デイサービス施設からの依頼により、定期的に運動指導を実施しました。



④ 情報発信の強化、見直し

【全施設】財団情報紙「ITEM（アイテム）」を中心に事業等のPRを行うほか、施設によってはメールマガジンの発信やデジタルサイネージでの情報提供などを行っています。また、ホームページ以外にも、ツイッターやフェイスブックなどのSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を活用した情報発信も行うなど、各種情報メディアを活用して情報発信力の強化に努めました。他にも各館の活動により外部からの評価を得、館自体のブランド力強化にも繋げていきました。

TOPIX

昆虫館が博物館活動奨励賞を受賞

平成29年、昆虫館と市内郵便局の連携事業を紹介した論文が公益財団法人日本博物館協会の博物館活動奨励賞を受賞しました。

切手を切り口に、昆虫や自然、手紙に興味を広げればと平成21年から市内郵便局とともにやってきた取り組みをまとめた論文「郵便局と博物館 地域連携事例と可能性」が評価されました。

5. 経営戦略

今後の事業展開と財団運営

今後の事業展開と財団運営については、伊丹市との連携をはじめ、地域・市民との協働事業の推進、教育現場などへのアプローチを進めるとともに、施設の持つポテンシャルを最大限に発揮しながら、より効果的な事業展開を図っていく必要があるものと考えています。そのため財団自体の収支改善と先を見通した財源の確保、組織改革と人材確保・育成、それらを含めた経営・運営の方向を明確に示していくことが重要であると認識しています。

以下に掲げる基本方針をもとに基本計画を推進し、定款に掲げる目的達成に向けて取り組み、公益財団法人としての役割を果たしてまいります。

(1) 基本方針

伊丹市の文化芸術・スポーツ振興、生涯学習、自然環境学習にかかる政策や施策の実現に向け、主体的にその役割を果たしてまいります。

事業の実施を通じ、幅広い知識、コミュニケーション力、専門性を持ち合わせた人材の育成や事業ノウハウの蓄積を続け、市民、地域などに還元してまいります。

継続・安定的な事業展開と組織運営のため、指定管理施設の確保と人材・財務面の充実により経営基盤の安定・強化を図ってまいります。

(2) 基本計画

① 伊丹市における文化芸術、生涯学習、スポーツの活性化

(ア) 文化芸術がそばにあるまちへ向けた取り組み

生活の中に音楽や美術、工芸などがある、文化芸術が身近なものとして生活の中にあることが意識できるような取り組みを進めます。専門性を生かし、多種多様な文化芸術事業を施設内外で展開し、まちの集客や文化芸術に親しむことのできる環境づくり、社会的価値の醸成、伊丹市のブランディングへの貢献などを行っていきます。

・文化芸術がそばにある取り組み

芸術家の協力を得て、ワンコインコンサート、アート即売会など、低廉な料金での公演や作品の提供を行っていきます。また、アウトリーチや施設間をまたいだ事業にも積極的に取り組んでいきます。

・まちへの集客、にぎわいづくり

著名なアーティスト・劇団の企画事業の誘致や、市内外からの集客が期待できる注目度の高い（独自性・話題性）事業、各種コンクールの実施・誘致に努めます。

・協働・連携による中心市街地の活性化

中心市街地の活性化と回遊性（にぎわいづくり）を高めるため、中心市街地で行われているイベントなど市民・商業者・企業・行政との協働・連携をさらに進め、まちと一体となった各種事業の展開を推進します。

・『住みよい魅力あふれる文化都市 伊丹』のアピール

多種多様な文化・生涯学習施設が整備されている魅力を活かし、都市ブランドの向上や、イメージアップにつながる話題性のある魅力的な企画や情報の提供に努めます。

(イ) 次世代を担う子どもたちの育成事業の充実

10の施設の専門性を活かした多面的なアプローチによる文化芸術、生涯学習、スポーツ体験を通して、次世代を担う子どもたちの感性・創造力・表現力・コミュニケーション力などを育むプログラムの充実を図ります。

- ・感性を育む事業の提供

子どもや親子を対象に「観る」「聴く」を分かりやすく経験できる文化芸術事業を実施します。音楽団体などの協力を得ながら、市内どこでも文化芸術に親しめる体制を整えます。

- ・想像力、表現力、コミュニケーション力及び体力を高める講座、体験事業の実施

演劇、音楽、工芸、スポーツ、自然学習といった様々な分野でプロによる指導、ワークショップ、体験プログラムなどを実施します。幼少期から経験できる種類や機会を多く提供し、これらの能力向上を目指していきます。

(ウ) 生きがいと健康づくり事業の拡充

誰もが生きがいをもって、健康で共に助け合う地域生活を送ることができるよう、生涯学習を通じた地域コミュニティの活性化と市民の健康づくりを推進します。

- ・生涯学習活動を通じた市民の生きがいづくり、仲間づくりを啓発するとともに、支え合う地域コミュニティの土壌を活性化させていくため、各種ボランティアの育成と世代交代の促進に取り組むとともに、地域住民との協働事業の拡充に努めます。



伊丹スポーツセンターでの健康教室

- ・市民の健康寿命の延伸や地域ぐるみの健康づくりなどに寄与するため、「伊丹市健康づくり計画」に基づく取り組みの一環として、市内各地域に出向いてのスポーツ指導や体組成計（体脂肪・筋肉量など、体の組成に関する諸数値を測る装置）を使用した測定会などの出前スポーツ講座を実施します。

(エ) 情報発信の強化

財団情報紙「ITEM」、事業毎に作成するチラシ、ポスターをはじめとする従来の広報手段のみに頼ることなく、幅広く情報を発信できるSNSや各種情報メディアの活用など効果的な方法を模索し、創意工夫を行いながら、時代に応じた情報発信力の強化に努めます。また、文化施設とスポーツ施設間の広報・情報協力による互いに異なる利用者層へのアプローチも推進します。

② 財団における文化芸術、生涯学習、スポーツ各施設の方向性

(ア) 個別施設の状況・方向性

文化会館

1, 202人を収容する大ホールをメインに、質の高い文化芸術事業の提供はもとより、中心市街地のにぎわいづくりの一端を担うための高い集客性も求められています。安定した人気のある公演や大規模なコンクールの誘致など、施設の効果的な活用とともに市民文化の拠点施設として安全に利用できるよう適切な施設の維持管理を行っていきます。

演劇ホール

「公演」、「人材育成」、「普及啓発」の3つの取り組みを柱に、演劇・ダンス事業を推進しています。その専門的かつ独自性の高い事業展開は、文化庁や一般財団法人地域創造からの助成金・補助金を得ていることから分かるように、高い評価を得ています。



近年は市内中学校や高校などに演出家や役者を派遣し、演劇の手法を用いたコミュニケーション教育にも力を入れています。引き続きこの取り組みを進め、地域と連携した企画や学校へのアウトリーチなど、市民に対するアプローチを進めていきます。

音楽ホール

世界の音楽を紹介する「aiphonic 地球音楽プログラム」をはじめ、市民オペラの制作・公演、クラシックコンサート、音楽教室、市民の音楽活動の支援など、音楽文化の拠点として、多くの市民に利用されています。市民オペラ事業を中心とした市内音楽愛好家のレベルアップや、中高生対象プログラムの拡充、育成団体との協働事業や育成団体間の事業実施の支援など、新たな視点での事業を展開していきます。

美術館

「風刺とユーモア」をコンセプトに、18世紀から現代にいたる近・現代風刺画を蒐集しています。特に19世紀のフランス美術を代表する作家オノレ・ドーミエのコレクションは世界的にも有数の規模を誇っています。

近年では「ぐりとぐら展」、「林明子原画展」、「みんなのレオ・レオーニ展」といった、親しみやすく気軽に鑑賞できる展覧会や、「鴨居玲展」をはじめとした、心身を削るように描かれ、見る者を圧倒するような展覧会など、多彩な内容で、多くの来館者を集めています。認知度が高まっている現状を活かし、より親しまれるような企画展の開催や、コレクションの活用を進めていきます。

工芸センター

工芸を通じて市民の豊かな暮らしを創出するため、陶芸、版画、彫金や織・染色などの各種講座や「夏休み1日クラフト教室」(写真)を開講しています。国内外から作品を公募する「伊丹国際クラフト展」を柱とした企画展では国内外の幅広いジャンルの工芸・デザインを紹介し、公募展入選作品は、伊丹発のオリジナル商品として、施設内のショップで販売し人気を集めています。



利用者には高い支持を得ながらも、平成26年度実施の伊丹市民意識調査結果では施設認知度が低く、現在成果をあげている各種講座や、オリジナル工芸作品の販売などを通じ、暮らしの中に工芸があるというライフスタイルを提案する取り組みにより、未利用者層へのアプローチを進めていきます。

みやのまえ文化の郷

「美術館」、「工芸センター」、「伊丹郷町館(旧岡田家住宅・酒蔵、旧石橋家住宅、新町家)」に「柿衛文庫」を加えた文化ゾーンの愛称で、近隣の白雪長寿蔵ミュージアムとともに清酒発祥の地・伊丹の歴史を感じられる場所となっています。施設内の掲示の多言語化を伊丹市とともに進め、この歴史的な風致を活かし、施設内の枯山水庭園とともに集客施設として、本市観光の中心的役割を果たしていきます。また、大規模改修工事による休館も予定されていることから、これまで蓄積されてきた資料の整理・保存やアウトリーチ事業にも取り組んでいきます。

生涯学習センター・図書館南分館

文化・学習施設、図書館分館、フィットネスクラブを併設し、乳幼児からご高齢の方まで幅広い世代の方に、生涯学習、健康づくりの場として活用されています。

講座・教室等を中心に、市民の自己啓発、自己表現、仲間づくりを推進し、同好会・ボランティア・地域グループの育成、支援を通じた市民活動を支援していくとともに、関係施設等と連携しながら、市民が学び、つながり、活躍するライフステージの提供に取り組みます。

昆虫館

昆陽池のほとりにある、1年中生きた昆虫と間近で触れ合える施設です。チョウ温室では南国の花々が咲き誇る中を舞う、約14種・1000匹のチョウの姿を身近に見ることができます。施設内には昆虫の世界を10倍に拡大したジオラマや、珍しい世界の昆虫標本、図書コーナーなどもあり、これらも活用しながら、虫や自然環境について楽しく学ぶことができるような展示、講座を開催していきます。



また伊丹市における生物多様性の市民支援拠点施設として重要な役割も担っていきます。

伊丹スポーツセンター

総合スポーツ施設として昭和46年の開設以来、1,300万人を超える方々に利用いただいています。伊丹市スポーツ推進計画の“するスポーツ”、“みるスポーツ”、“ささえるスポーツ”、“伊丹ならではのスポーツ”を推進するため、身近にスポーツに親しめるスポーツ施設の役割はより重要になってきています。また、オリンピック・パラリンピック競技大会の開催でスポーツへの関心が高まる機会を捉え、幼児・児童を対象とした体験型イベント「キッズフェスタ」(写真)、「伊丹オトラク」とウォーキングを合わせた「オトラクピクニック」などの新規事業により、今まで伊丹スポーツセンター事業に関心薄い年齢層やスポーツ種目などに対しても、積極的にアプローチしていきます。



(イ) 財団全体としての方向性

各施設の持つ事業ノウハウを繋ぎ、財団の持つ強みである各分野での専門性を活かし、「鳴く虫と郷町」、「キッズフェスいたみ」など施設個々の特性を合わせた事業を引き続き実施していく他、財団だからこそできる新しい価値の創出につながる事業を、財団全体で検討し、実施に向け取り組んでいきます。

(ウ) 施設の保全と改善

老朽化しつつある施設機能を適正に維持・保全するには、長年、施設運営に携わってきた財団の役割が大きいと認識しています。このため、今後改修が見込まれる各施設の空調設備や舞台機構などの改修、照明設備のLED化など、各種の改修計画については市と協議・調整を図りながら実施し、施設の適正な維持管理と保全に努めます。

また、この数年のうちに計画されているみやのまえ文化の郷、生涯学習センター、図書館南分館の大規模改修工事においては、施設閉館中であっても収蔵品や



大規模改修が計画されているみやのまえ文化の郷



開館20年を迎えた文化会館

図書の管理、貸し室の受け付け、事業、展覧会の企画準備など様々な業務が発生することが想定されることから、長年施設管理を担ってきたノウハウをもとに、適切に工事が進捗し、リニューアル後、スムーズに施設運営ができるよう対応していきます。

③ 財団の組織体制と人材育成の強化・充実

(ア) 人材の確保・充実

財団の総職員数は、平成30年4月1日現在、給料表適用職員（以下：表適用職員）が38人、嘱託職員が19人、伊丹市からの派遣職員が3人、伊丹市OB



嘱託職員が12人、キャリアスタッフ職員が11人、スタッフ職員が152人であり、合計235人となっています。平成29年度に実体的に統合した伊丹スポーツセンターの職員が加わったことにより平成28年度と比べ倍増していますが、これを構成割合で見ると、表適用職員が16.2%、嘱

託職員（市OB、市派遣含む）が14.4%、キャリアスタッフ職員が4.7%、スタッフ職員が64.7%となっています。特にスタッフ職員の中の73.2%が短時間での雇用で、その多くがスポーツ指導員となっています。

以上のように財団内の表適用職員の割合は、16%台と極めて低く、公益財団法人としての自立性や発展性を発揮できる組織体制とはなっていない状況にあります。このため、業務の即戦力となりうる人材の活用・確保及び士気高揚の観点から、内部登用（選考）を含めて、適宜、職員採用試験を実施し、組織の活性化を図るとともに、以下のとおり人材の確保・充実を図ります。

① 表適用職員、嘱託職員

財団運営を中心的に担う職員の増

② キャリアスタッフ職員

財団勤務長期経験スタッフ職員をキャリアスタッフ職員に登用

合計240人程度とする

さらに、将来的には、財団運営を中心的に担う表適用職員、嘱託職員の構成割合を3分の1以上（72人⇒80人程度）とすることを目指します。

(イ) 組織体制の強化

組織体制では、今後、指定管理者として管理運営する予定の市立10施設とともに、総務課及び事業企画課を置いています。各施設の館長(施設長)及び副館長は、基本的には表適用職員を充てることとし、それ以外に少なくとも表適用職員を1人以上配置していきます。

総務課及び事業企画課は、ともに財団の要となり管理運営及び事業展開を図っていく必要があることから、表適用職員及び嘱託職員をはじめ全職員が相互理解を深め、OJTなどによるスキルアップを図るとともに、総合的な管理運営能力を具備するための人材育成に取り組みます。そのためにも人事異動などを通して幅広い業務を経験させ、管理運営能力の向上が図れるよう取り組み、組織力のアップを目指します。

また、文化芸術、スポーツなど幅広い業務を担っていることから、職員自身が普段からこれらに親しみ健康であることが重要です。このため、一部で慢性的になっている超過勤務の削減も大きな課題となっていることから、業務の見直しなども含め、その削減に取り組みます。

さらに、組織の活性化と人材育成等を図る観点から、同一職場に長期間配属されている職員については、各職場の業務状況等を勘案しつつ、適宜、人事異動を行います。一方で、専門職の色彩が強い業務を担当している職員には、安んじて職務を遂行してもらうよう、専門職に位置づけることも検討していきます。

(ウ) 研修機会の充実

職員の人材育成については、組織的・計画的な研修の実施というより、管理職による普段の業務での育成に頼っているところがありましたが、平成29年度より研修に係る経費を増額して予算化しました。今後も継続して専門講師による研修の実施や、一般財団法人地域創造などの専門機関が実施する研修会に積極的に参加させるなど、将来の財団運営を担う後継者の育成に努めます。また、窓口や案内業務で主たる役割を担うキャリアスタッフ・スタッフ職員も対象にした接遇研修などを実施します。



全職員を対象に行った接遇研修

(工) 連絡調整会議の開催

各施設、伊丹市・関係団体との「連絡調整会議」を開催し、意見交換を通して相互の連携や意思統一などを図り、業務の効率化や組織の活性化に努めます。

(オ) 職員の士気向上のための制度導入

職員の努力や成果が人事・給与に反映できるような評価制度の創設など検討していきます。また、現在、2021（平成33）年3月31日までを計画期間とする「次世代育成支援法に基づく公益財団法人いたみ文化・スポーツ財団行動計画」に基づき、働きやすい労働環境の整備に向け取り組んでいます。

④ 財団の経営基盤の安定・強化

財団経営を安定的に行っていくうえでは、中・長期の収支計画を立てることが極めて重要であり、自律的發展と事業伸長のためにも欠くことのできないものです。このため、今後とも状況の変化等を見据えながら、できる限りの確な収支計画を立て、より一層の安定的な経営を目指します。

これらの取り組みにより、内部留保金についても、将来的には「公益法人の設立許可及び指導監督基準の運用指針」により示されている事業費・管理費等の30%程度以下を維持するとともに、不測の事態にも対応しうるよう適切な水準を目指します。また、内部留保金（利益剰余金）の一部を使い、公益目的に資する周年事業実施等のための基金の設置を行い、柔軟な運営を図っていきます。

(ア) インセンティブ制度の導入に向けての検討

指定管理施設では、平成21年度より利用料金制が導入されていますが、今後とも利用料金制度の主旨を踏まえ、インセンティブが十分に機能するような方策について、検討していきます。また、公共施設再配置による大規模改修工事に伴う暫定的な施設使用料金の減免措置について、利用料金制に及ぼす影響を見極め、伊丹市と協議していきます。

(イ) 貸館利用の促進

施設の貸館利用の促進には伊丹市などの協力が欠かせません。条例・規則により「本市またはその機関が主催または共催する事業等に使用するとき」は全額を免除するという規定があり、無料であるが故に時間、部屋が過分に予約されている場合も散見されます。これらについては、伊丹市とも綿密に協議していき、貸室の確保を図るとともに、大規模なコンクールの誘致、著名なアーティストの公演などを通じ、施設の知名度、イメージアップにより、施設の利用促進につなげていきます。

(ウ) 収益事業等の拡大

「収益事業」は、講座やセミナー、作品図録などの販売のほかフィットネス管理運営事業、駐車場管理事業などで、経常費用合計の17.1%、「公益目的事業」は、その77.5%を占めています。

財務基盤をより強化するためにも、収益事業の拡大を検討する必要があります。伊丹市においても施設の設置目的の範囲内において、自主事業を実施することを推奨されていることから、既存収益事業をはじめ収益拡大の方策を検討します。



工芸センターの講座風景



林明子原画展の販売コーナー

また、実現には極めてハードルは高い状況ですが、経営基盤強化に向け、例えば、他団体との経営統合や他都市での事業などの可能性について、調査・研究を行っていきます。

(エ) 使用料の見直し

使用料については伊丹市の条例により使用料（利用料金）の規定がなされていますが、平成26年4月に消費税が8%へと改正され、現時点において平成31（2019）年10月には10%に改正される予定となっていますが、長年、使用料の改定がされず、今後、税負担の増加は避けられない状況となって

います。このため、使用料について適正な水準が確保できるよう、条例・規則改正など伊丹市の動向を注視していきます。

(オ) 内部管理経費等の削減

内部管理経費の増嵩を抑制するため、引き続き、施設の維持管理経費や通信運搬費、光熱水費など固定経費の削減に努めます。特に、電気料金の削減を図るため、伊丹市とも調整しながら計画的に照明器具をLED化へと転換を進めるとともに、夏季・冬季の執務室における冷暖房の設定温度の徹底を図ります。さらに、ガスの自由化や電気、ガスのセット割りなど比較検討を行ってきます。

他にも、各種事業に関する印刷物も多いことから、チラシ作成や印刷物で可能なものについては職員によるデザイン制作や内部印刷で対応するなど、極力、内部管理経費などの削減に取り組み、経費の効率的な執行に努めます。

また、施設の大規模改修工事にあたっては、より適切に改修が実施できるよう提案していきます。



LED化された美術館展示室

(3) 計画目標

本計画期間中に実施する様々な事業、取り組みにより以下の3つを指標として、その改善に努めていきます。

① 利用者満足度の向上

今回、新たに設けた「職員行動指針」を実践し、伊丹市の指定管理施設運営状況報告書にある利用者アンケートの満足度（たいへん満足）、及び（たいへん満足・満足）の割合を向上させます。

平成29年度	47.8% (たいへん満足)	85.1% (たいへん満足・満足)
	↓	
計画期間終了時	50.0% (たいへん満足)	90.0% (たいへん満足・満足)

② 施設利用者数の増加

魅力的な事業展開、利用者の満足度を高めていくことにより、指定管理10施設の利用者数を増加させます。

平成29年度実績	1,438,079人
	↓
計画期間終了時	1,580,000人

③ 人材の確保と充実

適正な職務環境を整えていくため、表適用職員、嘱託職員（伊丹市派遣含む）の構成割合を3分の1（33.3%）以上とし、人材の確保に努めます

平成30年4月1日時点	30.6%
	↓
計画期間終了時	33.3%

6. 今後の収支見通し

本計画に基づき、財団運営を進めていきますが、収支見通しにあたっては、伊丹市との協議、調整を要する事項や施設の修繕などまだ詳細が明らかになっていない部分が多くあるものの、現時点での想定において5年間の収支見通しを行いました。ただし、本計画期間中に長期の休館を伴う施設修繕が予定されている「みやのまえ文化の郷」、「生涯学習センター」についてその修繕の期間、内容、その際の業務などが明らかになった時点で収支見通しを見直すものとします。

		(単位:千円)						
		H29年度(決算)	H30年度(決算見込)	H31年度(予算)	H32年度(計画)	H33年度(計画)	H34年度(計画)	H35年度(計画)
事業活動収入	基本財産運用収入	470	525	533	595	595	595	595
	特定資産運用収入	4	4	1	1	1	1	1
	会費収入	935	1,010	1,336	1,142	1,160	1,178	1,197
	事業収入	216,269	218,917	219,744	195,850	201,396	229,196	231,337
	利用料金収入	279,570	285,200	305,168	262,748	293,817	309,788	311,232
	受託事業収入	721,798	754,489	734,721	711,461	714,899	749,268	749,379
	補助金等収入	92,609	77,135	79,348	82,514	100,105	93,392	77,555
	雑収入	8,040	1,074	1,386	301	301	301	301
	事業活動収入(計)	1,319,695	1,338,354	1,342,237	1,254,612	1,312,274	1,383,719	1,371,597
事業活動支出	事業費支出	283,598	295,778	294,105	266,605	245,096	309,108	310,599
	施設管理受託事業費支出	942,851	994,324	987,325	923,837	985,290	999,308	1,001,403
	管理費支出	60,148	61,297	58,212	60,887	69,170	58,808	59,008
	事業活動支出(計)	1,286,597	1,351,399	1,339,642	1,251,329	1,299,556	1,367,224	1,371,010
	事業活動収支差額	33,098	△13,045	2,595	3,283	12,718	16,495	587
投資活動収支	投資活動収入	110,115	471	0	2,477	10,562	8,000	0
	投資活動支出	125,925	4,938	8,652	6,672	7,895	12,106	4,069
	投資活動収支差額	△15,810	△4,467	△8,652	△4,195	2,667	△4,106	△4,069
	予備費支出	0	90	90	90	90	90	90
	当期収支差額	17,288	△17,602	△6,147	△1,002	15,295	12,299	△3,572
	前期繰越収支差額	78,075	95,363	77,761	71,614	70,612	85,907	98,206
	次期繰越収支差額	95,363	77,761	71,614	70,612	85,907	98,206	94,634

7. むすび（計画推進に向けて）

公益財団法人いたみ文化・スポーツ財団は今後も、いたみのまちの元気のため、伊丹市の文化芸術、スポーツ、生涯学習などにかかる施策の実現に向け、その担い手として、主体的に役割を果たしていきます。第3次経営計画では、財団の経営理念（財団の使命・経営信条・職員行動指針）を明らかにし、経営戦略の中に3つの基本方針を掲げ、その達成に向け取り組んでいきますが、刻々と変化する財団を取り巻く環境や状況に大きな変化あった場合には計画期間中であっても計画の修正、見直しを的確に行い、機敏に対応していきます。